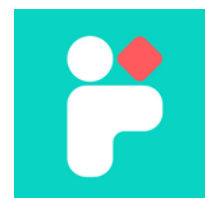


Friendly説明資料

2024年1月20日 更新

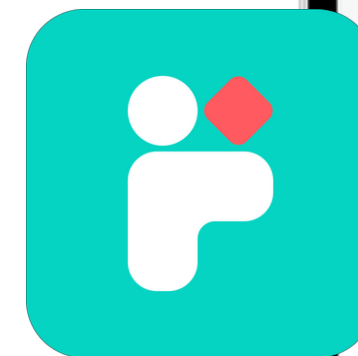


Friendly

事業概要 - Friendlyについて

よりリアルでより満たされる体験を提供することで、自分らしい生き方を追求しつつも、推しへの熱い共感を共にすることができる
かけがえのない友への出会いの機会を提供

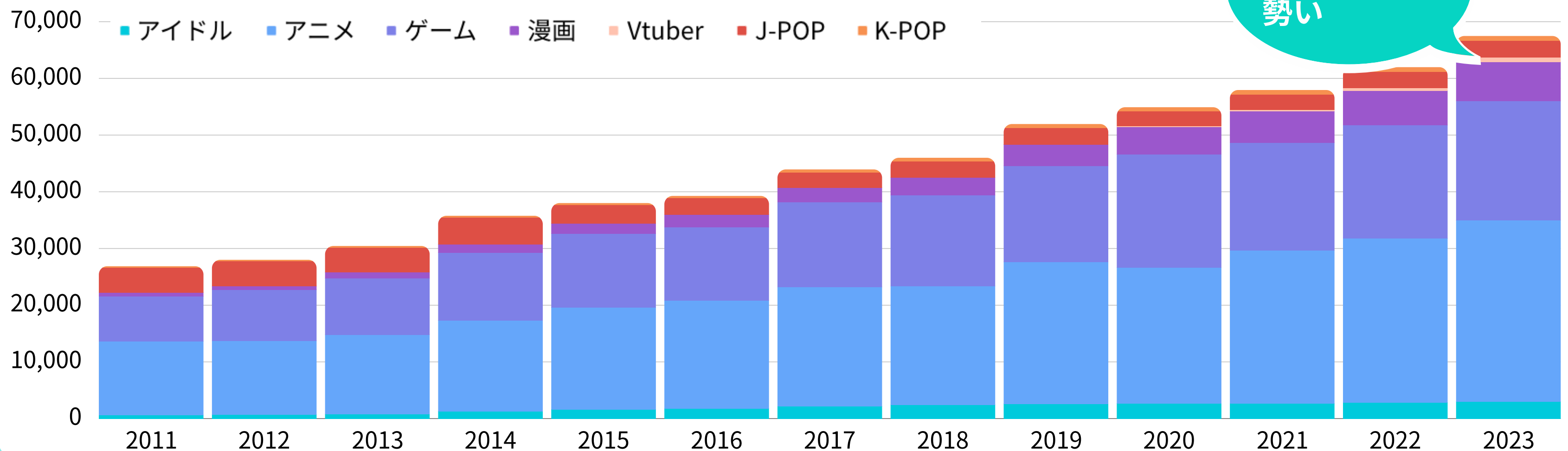
- 友達が欲しい20代～40代が主な利用者
- 写真ベースで行う従来にない出会い型
- 金融機関でも採用されている強固な本人確認システムの導入



市場規模

推し活市場は2011年から12年で2.5倍成長しており
市場規模はおよそ7兆円、推し活市場は年々大きく成長を続けている

推し活主要分野の市場規模

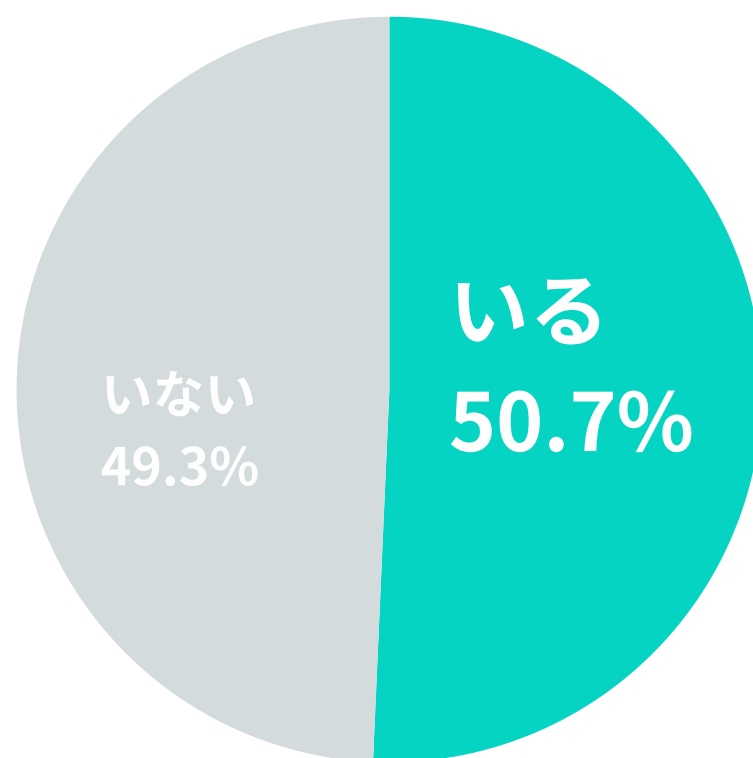


参考: <https://animeanime.jp/article/2023/11/02/81007.html>, <https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000011111.000007006.html>,
<https://research.impress.co.jp/topics/list/ebook/673>, https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/3304, <https://president.jp/articles/-/66622?page=2>

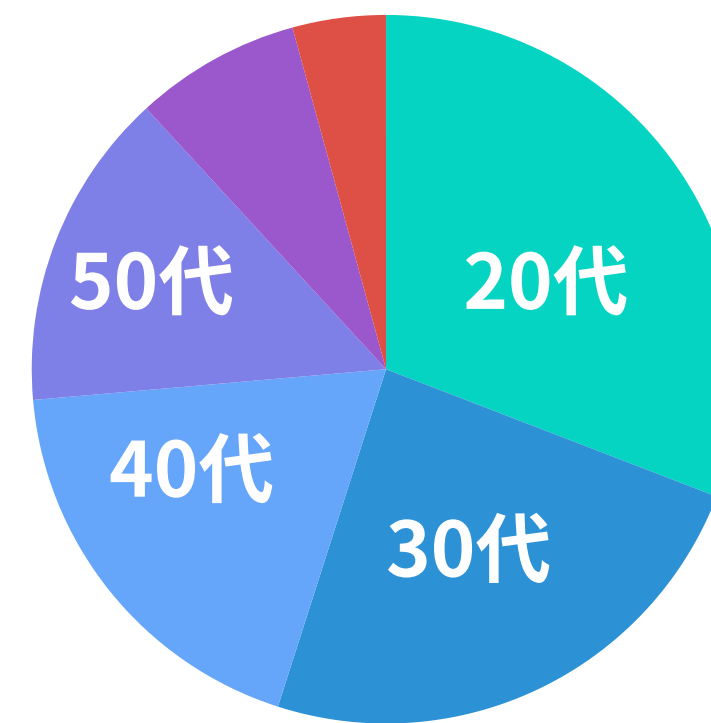
我々が解決する課題 - 推し活の社会現象化

インターネット調査によると回答者の**50.7%**が推し活を行っている
また回答者の年代の分布は**20代から70代**と幅広く若者だけの現象ではない
推し活は社会現象となっていると言える。

あなたには推しがありますか？ (n=3,364)



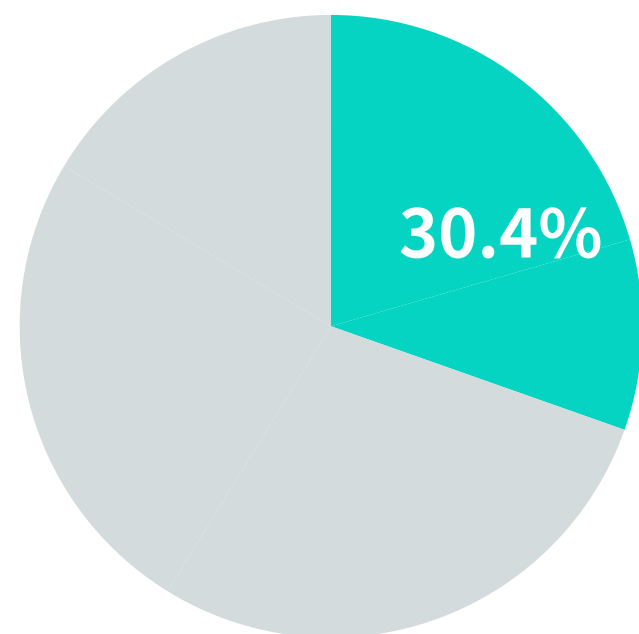
推し活をする人の年代の分布(n = 2,355)



我々が解決する課題 - 推し活に関する悩み

30.4% の人が共通の趣味を持ち自身を理解してくれる友達が見たいと回答する一方で、44.6%の割合で推し仲間意外に推しの話をすることに抵抗があると回答
推しについて一緒に語り、共感・理解してくれる友達が見たい

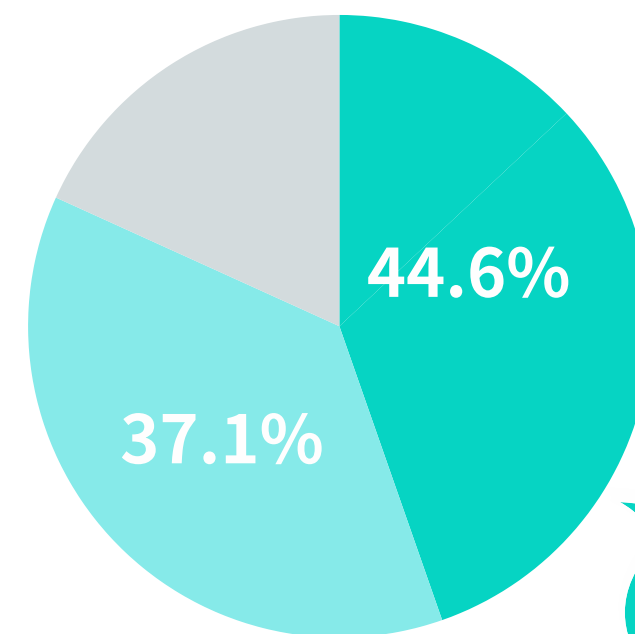
推し活をおこなう中で困ったこと(n= 1,104)



- 推し活に使用できる金額が少ない
- 共通の趣味を持つ友人がいない
- 推し活を家族・友人に理解されない

共通の趣味を持つ友人がいない・推し活を理解されないと回答した人の割合

推しの話をすることに抵抗がある(n= 1,104)



- 相手が興味を持ってくれない
- 自分の価値観を人に押し付けるようで抵抗がある
- 推しを馬鹿にされるかもしれない

ある・やや抵抗がある

押し活市場は依然として大きく成長しており、押し活をする年代も多様化している
今後も押し活人口が増えていくと予想される。

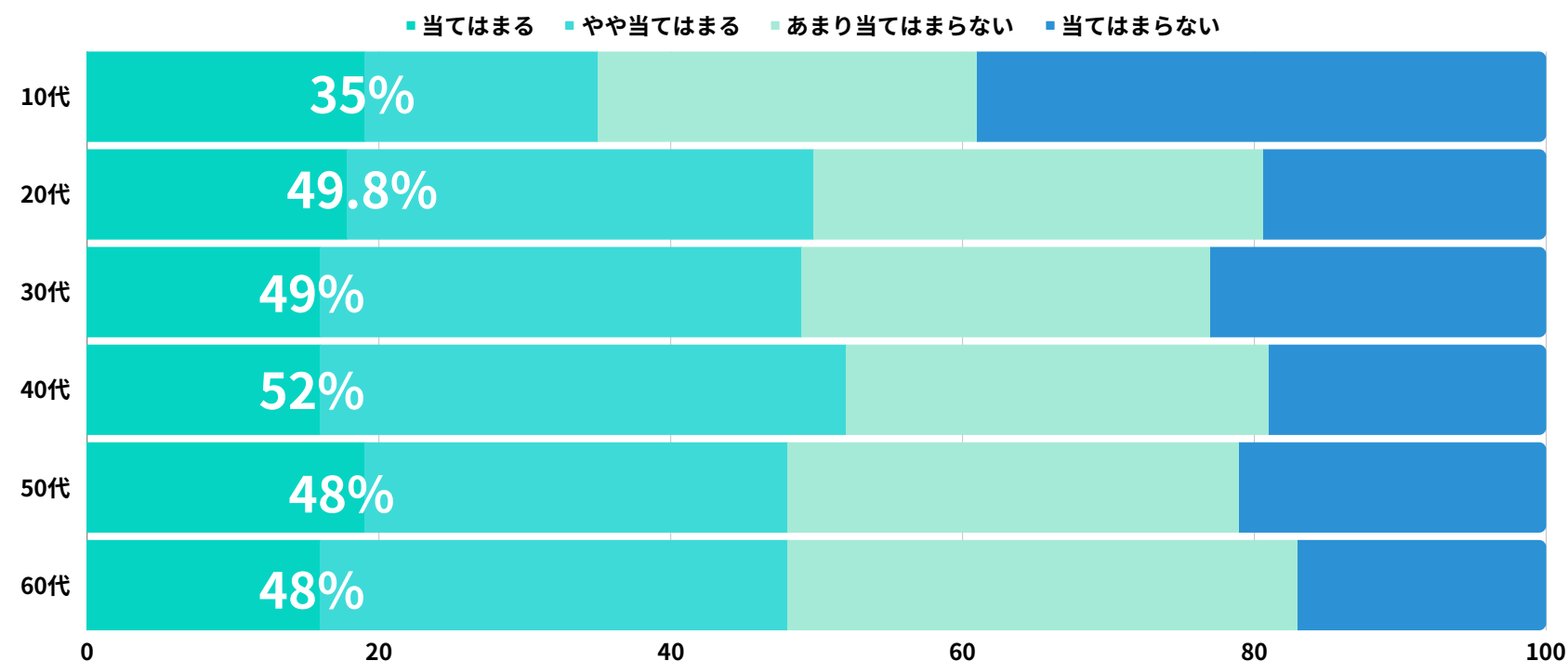


押し活が社会現象となっている今日
押し活の課題は現代社会での課題と言えるのではないか

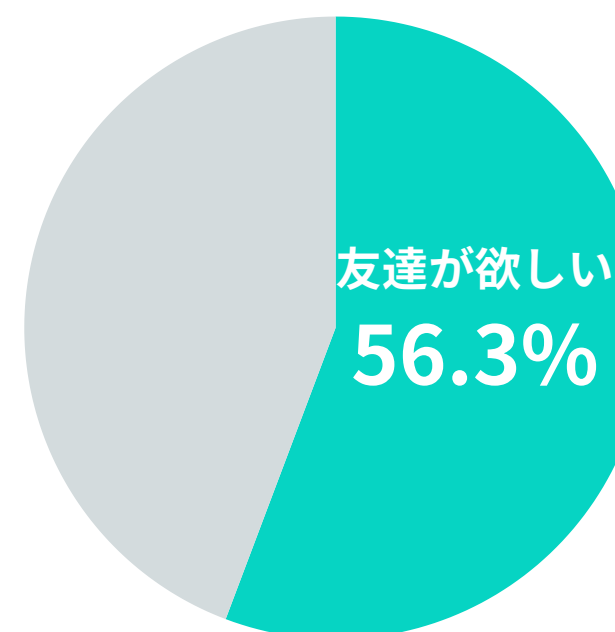
我々が解決する課題 - 現代社会における友人がいない割合

日本では『友人がいない』割合が各年代で増え社会問題として取り上げられてきている
友達が少ない割合が多い一方、半数以上の人々が友だちを欲しいと思っている

友達が少ない【10代～60代の割合】



『友達が欲しい』と思った人の割合【10代～60代】

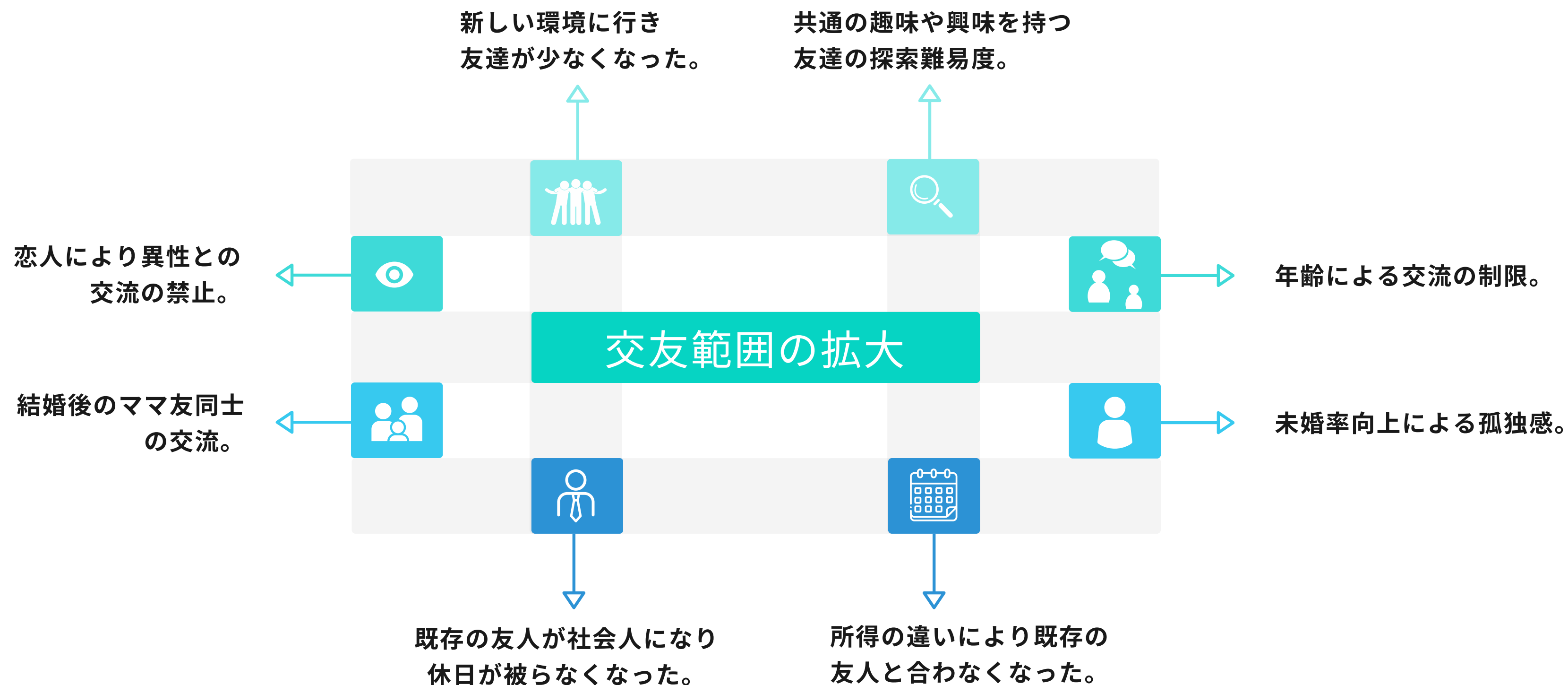


10代～60代の男女1,000名を対象に「人間関係」に関する意識調査を実施したところ、全体で56.3%の人が「もっと友達を増やしたいと思った経験がある」と回答した。

我々が解決する課題 - 交友範囲の拡大

地域、年齢、疎遠、仕事、価値観、所得の違いなど

年齢を重ねるにつれてよりこれらの傾向に当てはまりやすく、友人がいない割合が増えている



人との繋がりや出会いのきっかけを年齢・時間関係なく作れる場所を作ることで
推し活の問題だけでなく日本全体の課題解決に繋がる



自分に本当の意味で共感してくれる『友達』を当たり前で作れることが
日々の推し活の満足度を引き上げることに！！

写真ベースでマッチングが行える同性の友達作りアプリとして稀有な存在

